

和歌山大学災害ボランティアステーション「むすぼら」による在名古屋トルコ共和国総領事館への募金贈呈につきまして（報告）

### 【1】経過

2023年2月6日に発生したトルコ共和国南東部・シリアとの国境付近を震源とする地震とその余震による甚大な被害を受けて、和歌山大学災害ボランティアステーション「むすぼら」では、2月13日（月）より学内5か所に募金箱を設置しておりました。

地震発生から約1か月が経過した3月下旬、まずは募金の第一弾を在名古屋トルコ共和国総領事館へ贈呈して参りました。

当日は、ウムット・リュトフィ・オズテュルク総領事にご対応いただきました。

### 【2】当日写真



### 【3】参加学生（むすぼらメンバー）のコメント

#### ①松本 麟太郎さん（経済学部3回生）

「今回の会談を通して、トルコ地震はまもなく2か月が経とうとしていますが、まだまだ現地は酷い状態で、一時的な支援だけではなく、長期的な支援が必要であり、その支援が少しの募金でも大きな支援となり得ることを知ることができました。また、私達は、1890年の

エルトゥールル号からイラクイラン戦争、東日本大震災と続く、日本とトルコ共和国の助け合いの絆を、次世代へと繋ぐ架け橋にならなければならないと感じました。その感じたことを具現化するために、和歌山大学災害ボランティアステーション「むすぼら」では、チャリティーイベントなど多くの人に支援の輪を広げられる活動をしていきたいと考えています。」

②湯川 愛理さん（経済学部3回生）

「遠く離れたトルコで起こった大地震」という認識が、会談によって「復旧・復興のために少しでも力になりたい」と感じ方が変わりました。総領事によると、被災地の状況は刻一刻と変化し、必要な支援も変化しているそうなので、継続的な支援を続けていくためにチャリティーイベントを今後大学で開催したいと思います。トルコの地震を風化させない、トルコと和歌山の親交をより深めるためにも、トルコ料理や歴史を感じられる、参加者も楽しめるチャリティーイベントにしていきたいです。」